

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25257009

研究課題名(和文) 日本敗戦と新しい国境による台湾・沖縄の変容の口述歴史に基づく研究

研究課題名(英文) The oral history research of social change by Japanese defeat and new border in Taiwan and Okinawa

研究代表者

栗原 純 (Kurihara, Jun)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：40225264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 25,000,000円

研究成果の概要(和文)：本科研の成果としては、台湾における戦中・戦後の社会的変容について、日本人および台湾人による証言に関する11冊の報告集を刊行した。日本人の証言は、戦時中の沖縄から台湾へ疎開経験者、あるいは台湾から沖縄へ引揚者、日本時代の教育者、また台湾人の証言者は、連合国によりBC級戦犯とされた体験者、マラリア撲滅に従事した医師、日本の裁判所勤務者、戒厳令の時期に台湾からの情報を発信し続けたジャーナリストなど多岐に及び。

また、本科研と台湾口述歴史研究会との共催により、2014年8月30・31日の両日、台北の中央研究院台湾史研究所において、オーラルヒストリーに関する研究報告会を開催した。

研究成果の概要(英文)：The result this Scientific Research is the publication of 11 volumes of reports concerning the testimony of Japanese people on social changes during and after the Second World War in Taiwan. The people who testified are diverse: the Japanese testifiers include persons who experienced evacuation from to Taiwan during the War, or those who repatriated from Taiwan to Okinawa after the War and educators during the Japanese Period, and Taiwanese testifiers include with an experience of class-B and class-C war crimes by the Allied Powers, physicians engaged of malaria, workers at a Japanese court, journalists who continuously transmitted information from during the period under martial law, etc. On August 30 and 31, 2014, a meeting for reporting studies on oral history was cosponsored by this Scientific Research and the Taiwan Oral History Society at the Institute of Taiwan History Academia Sinica in Taipei.

研究分野：台湾近現代史

キーワード：台湾 植民地 脱植民地 同化政策 国民帝国

### 1. 研究開始当初の背景

日本の敗戦により、台湾と沖縄との間に国境線が引かれることとなり、その後の両国の戦中・戦後の社会的変容について、研究が不足していたため、研究の必要性があった。

台湾においては、1949年から1987年に戒厳令が施行されており、自由な研究、言論が制限されてきた。その結果、日本統治時代、戦後の社会的激動について、同時代者からの証言、聞き取りの時期が遅れ、90年代に入ってようやく可能となった。本科研はこのような貴重な体験者の証言を早急に録音し、記録として残しておく必要性から発足した。

### 2. 研究の目的

日本統治時代について、台湾には比較的文献史料が残されているものの、戦時中から戦後にかけての史料は極端に限られている。他方、沖縄では、戦後アメリカの統治下におかれ、それまで自由であった台湾との交流も限定されてきた。敗戦まで、同じ日本帝国内にあった台湾と沖縄の、戦後における歩みをその時代を体験した世代からの聞き取りにより具体的に明らかにすることを本科研は目的としている。

### 3. 研究の方法

台湾も米軍による空襲の被害を受けており、また総督府により機密資料、戦時中の文書などは保存されなかった可能性がある。台湾の場合、総督府の統治は、1945年10月25日まで継続しており、8月15日からその間に、統治時代の資料・史料などが処分されたことも考えられる。戦中から戦後における時期は台湾・沖縄においては文献史料が限られているため、当時を知る世代からの証言、オーラルヒストリーという方法により研究することとした。

以上の理由の他にも、そもそも公文書などではいわば、庶民の暮らしなどはなかなか記録されにくいこともあり、当時の生活を体験した世代からの聞き書きにより、とくに戦中・戦後の混乱期における市井の暮らしぶりについて明らかにするためにもオーラルヒストリーという手法による研究方法を中心にすることにした。

### 4. 研究成果

本科研の成果としては、台湾における戦中・戦後の社会的変容について、日本人および台湾人による証言に基づく記録、また、オーラルヒストリーという方法により歴史研究をしてきた研究者を招いて行った研究会の記録など、11冊の報告集を刊行した。

日本人の証言は、戦時中の沖縄から台湾への疎開経験者、あるいは台湾から沖縄へ引揚者、日本時代の教育者、また、台湾人の証言者は、連合国によりBC級戦犯とされた体験者、マラリア撲滅に従事した医師、日本の裁判所勤務者、戒厳令の時期に台湾からの情報

を発信し続けたジャーナリストなど多岐に及ぶ。

沖縄の名桜大学に勤務する研究分担者の菅野敦志は、1960年代から約20年にわたり東村において村長を務めた宮里松次の夫人、ミエさんから聞き取りをしている。ミエさんは、日本人居住者の少なかった台中で幼少期を過ごしているため、台湾人との家族ぐるみでの交流が盛んであったこと、台北の女学校時代の生活などについて生き生きとした証言を残している。

また、分担者の所澤潤は、1925年に台中の大地主の家庭に生まれ、現在は日本籍を取得している三吉勝夫氏から、台中の地主層の人間関係、彼らの反日的傾向などについて証言を得ている。

また、分担者の中田敏夫は、1920年代に台湾で生まれ、公学校教育を受けた後、戦後は国民党政権の下で、教員として働いた経験をもつ顔順裕・黄秀英・廖継思の3名から、日本時代と戦後の教育の相違点などについて証言を得ている。

代表者の栗原は、戦後の台湾社会の変容について、1949年から87年まで継続した、戒厳令時代の実相について聞き書きをしたいと考え、当時の台湾の状況について、メディアの世界で活躍した人物から聞き書きをした。

駱文森氏は、戒厳令の時代に「朝日新聞」の事実上の駐在員として活動した経験を持っている。日本と中国との国交回復は、他方において、台湾との断交を意味した。正式な外交関係はなくなり、また、テレビ・新聞などが撤収したため、台湾内部の動向などはなかなか日本に伝わりにくい状況にあつた時期、駱さんは定期的に台湾からの情報を本社に発信し続けた。なかでも1981年の作家向田邦子氏も犠牲となった飛行機事故などは、現地に駐在員のいた「朝日新聞」の特ダネとなった。

また、後に民進党の一員として台湾の政治に大きな役割を果たすようになる政治家からのインタビュー記事などは、戒厳令の下における台湾社会の胎動を伝えて、貴重なものであった。

日本統治時期、台湾総督府の教育政策としては、初等教育に限定されていたが、医学や農学の分野では、中等・高等教育が試みられた。とくに、医学の分野については、総督府は統治直後に専門学校を設立し、現地における医師の養成を重要政策とした。

このため、栗原は、戦時中・戦後の時期をこの医学に従事した台湾人がどのように過ごしたのかについて、二人の医師から聞き書きをした。

その一人である莊徵華氏は、中部の南投出身である。南投は日本統治時期、マラリアの猖獗する地域として知られていたが、莊氏は、10代から父親のマラリア治療を手伝うなど、生涯をマラリアとの戦いに捧げた人物であ

る。氏は、マラリア治療を目指して台北帝国大学医学部に入学し、専門家の森下薫教授などの下で薫陶を受ける。戦後、台湾大学と改名された同大学を卒業すると、潮州にアメリカのロックフェラー財団の援助を得て設立されたマラリア研究所で働くことになる。この、研究所時代、氏は、マラリア保持者の多く在住する山地に治療チームを結成して巡回し、治療と撲滅に従事し、後には研究所の所長として活躍する。

莊氏の話によれば、台湾のマラリアを媒介するアノフェレス蚊は、清流にしか棲むことができないという特徴があり、山裾を流れる清流に沿って患者は点在していたという。この点、どのような汚れた水のなかでも棲息するインドのマラリア蚊と台湾の場合は、事情を異にしていたという。このため、氏は長期にわたり、山地を徒歩で往診して治療と撲滅に従事した。

保持者がどうかの検査は、採取した血液のなかに原虫が存在するかどうかを顕微鏡で確認する、根気を要する作業が必要である。所長時代のエピソードとして、氏の話によれば、その作業員の能力を高めるために、検査対象の血液中にヒトの原虫とよく似た、サルスの原虫を入れて、所員による検査が正確にされているかどうかを確認したという。

また、台湾には住血吸虫がないため、脾臓が腫れていればマラリアと判断できるので、子供の場合には、脾臓を触診することでマラリア原虫が存在するかどうか、確認することもできたという。

1965年、台湾におけるマラリアは、WHOによって正式にその撲滅が認定された。この業績を評価された莊氏は、その後約20年間、南米・アフリカの各地におけるマラリア退治に従事した。とくに、サウジアラビアでは10年間にわたり、マラリア対策を実施し、サウジアラビアの幼児死亡率の飛躍的向上に功績を残している。

このような貴重な証言者によれば、戦後台湾におけるマラリア撲滅に貢献したのは、日本時代から蓄積されてきた各地の保持者の記録であったという。このような記録が、日本時代に設立された防遏所に残されていたために、効果的に患者を特定し得たという。その意味で、日本統治の成果が戦後、生かされた具体例ではないかと思われる。

また、この莊徴華氏と台北帝国大学、台湾大学医学部で同期の黄伯超氏からの聞き書きも実現した。

黄伯超氏は、戦後、台湾大学医学部学部長など医学教育の要職を歴任し、台湾における医学教育政策において重要な役割を果たしている。

黄伯超氏は、臨床が主流であった時代、卒業後は、臨床ではなく、生化学の分野に進み、戦後まだ、栄養不足のために発達の遅れていた台湾の幼児の栄養改善などの実践に取り組んでいる。

氏は80歳を過ぎた後にも台湾大学医学部に研究室を持ち、研究者として活動しておられる。お話もその合間に、医学部研究棟においてお聞きすることができたことは幸いであった。

本科研では、オーラルヒストリーという方法により研究をされてきた先学を講師に招き、研究会を開催してきた。

八重山毎日新聞社の松田良孝氏は、戦時中、沖縄からの台湾疎開と、戦後における沖縄への引き揚げについて、体験者から聞き取りをしており、その報告がされた。

また、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長の内海愛子は、台湾人のBC級戦犯からの聞き取りと、戦犯に対する補償問題などについて報告している。

以上の日本人研究者との交流、成果の共有の他に、台湾人研究者・口述学会と共同の研究報告会を開催した。

本科研と台湾口述歴史学会との共催により、2014年8月30・31日の両日、台北の中央研究院台湾史研究所において、オーラルヒストリーに関する研究報告会を開催した。

30日は、台湾史研究所所長謝國興氏、台湾口述歴史学会理事長許雪姬氏による挨拶と報告があり、内海愛子・宮田節子・中村ふじゑが報告した。

翌31日は、午前中、所澤潤・栗原純が報告し、午後、蔡錦堂（国立台湾師範大学台湾史研究所教授）・鍾淑敏（台湾史研究所副研究員）詹素娟（台湾史研究所副研究員）が報告した。

内海氏は、台湾のBC級戦犯について、80年代に直接、戦犯とされた台湾人からの聞き取りについて報告し、宮田氏は、1960年代に多くの朝鮮総督府高官から聞き取りをしたこと、その録音が現在、学習院大学東洋文化研究所に保管されており、この聞き取りに参加した研究者として宮田氏が中心となって原稿に起こし、紀要に掲載していることを報告した。

また、中村氏は、霧社事件の生き残りとして著名なオビン・タダオ氏と60年代以降、長期にわたり交流を続けた稀有な日本人研究者として知られており、オビン・タダオ氏のありし日の実像について報告した。現在、台湾でも、戦犯問題、総督府支配の評価、霧社事件に対する関心は高いので、これらの報告は注目されるものであった。

所澤は、台湾大学を卒業した最初の女子学生として知られる張美恵氏から長年聞き書きを続けており、張の学生時代、戦後の二二八事件当時のことなど、ライフヒストリーを報告した。

また、栗原は、戦後、台湾を代表する詩人・作家として知られる陳千武氏から、陳氏が第一回陸軍特別志願兵として徴兵され、現在のインドネシアにおいて「終戦」を迎えるまでの戦争体験について、陳氏の自宅で詳しく伺った内容について報告した。

台湾側からは、蔡錦堂氏により、同年3月から4月にわたり、立法院を占拠して政府の対中政策に反対したヒマワリ運動参加者からの聞き書き、記録の保存について、また、鍾淑敏氏からは、東南アジアなどに進出した台湾出身者について、詹素娟氏から台湾における口述歴史研究の現状について報告があった。

31日には、日本統治時代を体験した「日本語世代」の方も多く出席され、会場でその体験談を披露する場面もみられた。

両日にわたる研究報告会には、事前に登録した台湾の学生・院生、若手の研究者など100名近くが参加し、オーラルヒストリーに関心のある両国の研究者の交流と共に、若い世代と「日本語世代」との交流も実現できたことは成果であった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1 栗原純「台湾総督府阿片政策の「踏襲」と「転換」について 阿片令の改正と新特許問題」『史論』69、2016年、83-143頁、査読なし。

2 菅野敦志「「支配 被支配」から「台湾人の主体性」へ 日本における台湾教育史の回顧と展望」『名桜大学総合研究』25、2016年、77-86頁、査読あり。

3 栗原純「口述歴史研究之活動報告」『台湾口述歴史学会会刊』第六期、2015年、51-53頁、査読なし。

4 栗原純「帝国日本の阿片政策と台湾 極東調査委員の派遣と台湾総督府」『史論』67、2014年、20-71頁、査読なし。

[学会発表](計4件)

1 菅野敦志「終戦・引揚げと沖縄 台湾の人の移動」(台北市(台湾) 開南大学応用日本語学科・名桜大学国際文化専攻国際シンポジウム) 2015年10月22日

2 栗原純「特別志願兵の戦争体験と戦後 詩人・作家陳千武の聞き書きについて」「口述歴史研究の方法と課題 帝国支配・脱植民地・新たな国境について」2014年8月31日(台北市(台湾) 中央研究院台湾史研究所において)

3 所澤潤「台湾人女子最初の帝大生 国立台湾大学最初の女子卒業生 故・張美恵氏のスペインでの聴取りを通じて」「口述歴史研究の方法と課題 帝国支配・脱植民地・新たな国境について」2014年8月31日(台北市(台湾) 中央研究院台湾史研究所において)

4 栗原純「台湾総督府の阿片専売 専売局による罂粟栽培について」『第八回台湾総督府档案学術研討会』2014年8月28日(南投市(台湾) 台湾南投国史館文献委員会において)

[図書](計14件)

1 所澤潤・松永正義・林初梅他『台湾のなかの日本記憶戦後の「再会」による新たなイメージの構築』三元社、2016年、総頁306頁。  
所澤潤「序論 あの頃の台湾 本書を読み進めるために」9-44頁。

松永正義「第一章 戦後台湾における日本語と日本イメージ」45-60頁。

林初梅「第八章 湾生日本人同窓会とその台湾母校 日本人引揚者の故郷の念と台湾人の郷土意識が織りなす学校記憶」253-297頁。

2 栗原純「台湾総督府の阿片専売政策 専売局による罂粟栽培について」国史館台湾文献館『第八回 台湾総督府档案学術研討会論文集』国史館台湾文献館刊行、2015年、201~255頁、査読あり。

3 松田京子『帝国の思考 日本「帝国」と台湾原住民』有志舎、2014年、総頁271頁。

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

栗原 純 (KURIHARA JUN)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号: 40225264

(2)研究分担者

所澤 潤 (SHOZAWA JUN)

東京未来大学・こども心理学部・教授

研究者番号: 00235722

菅野 敦志 (SUGANO ATSUSHI)

名桜大学・国際学部・上級准教授

研究者番号: 70367142

中田 敏夫 (NAKADA TOSHIO)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 60145646

(3)連携研究者

松永正義 (MATUNAGA MASAYOSHI)

一橋大学・名誉教授

研究者番号：50190484

松金公正 (MATSUKANE KIMIMASA)

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：50334074

松田京子 (MATSUDA KYOUKO)

南山大学・文学部・教授

研究者番号：20283707

林初梅 (RIN SHOBAI)

大阪大学・言語文化研究科・准教授

研究者番号：20609573

(4) 研究協力者

鍾淑敏 (SHOU SYUKUBIN)

中央研究院・台湾史研究所・副研究員

周婉窈 (SHUU WANYOU)

国立台湾大学・文学院・教授

黄紹恒 (KOU SHOUKOU)

国立交通大学・国際客家研究中心教授

王耀徳 (OU YOUTOKU)

嘉南薬理大学・観光事業管理系助理教授